

## まちづくりにおける商人道と武士道

小森 星児（復興塾塾長） <s-komori@maia.eonet.ne.jp>

Amazon uk で都市計画のベストセラーを見ると、J.ジェイコブズの『アメリカ大都市の死と生』がいつも上位3点にランクされている。ランチとアレキサンダーも常連なので、恐らくどの大学でも必読リストに掲載されているのであろう。残念ながら邦訳は欠陥商品であったが、今回、同じ出版元が完訳を刊行した。自動車や電化製品なら交換ものですが、鹿島出版会さん。

彼女には他にもいくつか著書があるが、晩年の『市場の倫理 統治の倫理』は、博識の語り部としての著者の魅力が横溢している快著であろう。最近、松尾 匡教授が『商人道のススメ』で、ジェイコブズの市場の倫理を商人道、統治の倫理を武士道に置き換え、経済社会システムの変化に伴い、後者の身内集団優先原理から前者の開放個人主義原理への転換が不可欠であると論じているのは興味深い。

それぞれの特色を下記の表にまとめたが、この対比表を地縁型コミュニティとテーマ型コミュ

ニティに読み替えると面白い。地縁型コミュニティは同じ環境に育った仲間で形成され、裏切りできない関係が永続性を保障している。内は安心、外は危険という図式である。常に空気を読む息苦しさがあるが、地縁コミュニティだけでなく、企業も学校も政治も身内優先であった時代には賢明な処世法であった。

テーマ型の場合は、基本的には見知らぬ者の集団である。お互いを信頼しなければ、コミュニティは簡単に崩壊してしまう。だれからも信頼されるためには、わけ隔てなく他人に誠実に接する姿勢が必須条件である。またパットナム（『孤独なボーリング』）が見出した架橋型の社会関係資本の役割が重要になる。

ところで、ジェイコブズは時代や民族にかかわらず該当するこの2つの原理を抽出するため、古代エジプトや中国、日本の文献や人類学的知見まで渉猟したという。しかし、彼女の驚嘆すべき洞察はその先にある。この2つの道徳律は、内部的には整合しているが、両者から個別の徳目をつまみ食いすると、必ず最悪の腐敗が生じるというのだ。

家族や地縁型コミュニティをはじめ、終身雇用を前提とした会社コミュニティ、国民皆保険を目指した社会保障制度など、これまで住民の生活を支えてきた仕組みが希薄化・弱体化するにつれ、テーマ型コミュニティやNPOなどの役割への期待が高まっている。しかし、多くの場合、武士道の原理と商人道的原理の不細工な接木を提唱しているにとどまっているように思われる。必要なのは、行政や地縁型コミュニティが「統治の倫理」から「市場の倫理」に意識的に転換することではなかろうか。

市場の倫理（商人道） ：他人に対する「誠実」	統治の倫理（武士道） ：仲間に対する「忠実」
暴力を締め出せ	取引を避けよ
自発的に合意せよ	勇敢であれ
正直たれ	規律遵守
他人や外国人とも協力せよ	伝統堅持
競争せよ	位階尊重
契約尊重	忠実たれ
創意工夫の発揮	復讐せよ
新奇・発明を取り入れよ	目的のためには欺け
効率を高めよ	余暇を豊かに使え
快適と便利さの向上	見栄を張れ
目的のために異説を唱えよ	気前よく施せ
勤勉なれ	排他的であれ
節儉なれ	剛毅たれ
楽観せよ	運命甘受
生産的目的に投資せよ	名誉を尊べ

# 神戸復興塾 活動報告

2009年7月勉強会 / 7月29日(水)

『シリーズ災害と社会』の著者を囲む合評会  
菅磨志保氏(大阪大学コミュニケーションデザイン・センター特任講師)  
永松慎吾氏(人と防災未来センター研究副主幹)

森栗 茂一(大阪大学コミュニケーションデザイン・センター教授)  
山地 久美子(関西学院大学災害復興制度研究所准教授)

災害復興を学ぶ書籍として弘文堂から新たに「シリーズ・災害と社会」(全8巻、2009年)が刊行された。その中では復興塾メンバーの相川康子さん、菅磨志保さん、永松伸吾さんの三名が執筆担当している。

今回は特に『災害ボランティア論入門』(菅磨志保他編)・、『減災政策論入門』(永松伸吾)、担当の両氏にそれぞれ自著を語っていただいた。菅さんは災害ボランティア論として情報とつながり、

さらには「減災サイクル」と新たな価値の創造などを中心に解説した。永松さんは減災の目標を「被害軽減」から「尊厳ある生の保障」に移して解説した。

続く、小森星児塾長、小林郁雄理事長、相川さんという論客のコメントを受けながら、20名を超える参加者が熱い議論を交わした。シリーズの編者である大矢根淳(専修大学教授)さんや学生達の参加も学問としての災害復興を考える事の大切さを示してくれた。

震災から14年、災害論はここまでの到達に至ったのかと感慨深いものがあり、新しい視点を、我らの仲間が提出されたことを嬉しく思った。

復興塾勉強会としては合評会スタイルを初めてとってみたが、相互の研究を評価する形式までには至らず、今後もメンバーで啓発しあえる勉強会のスタイルを模索していきたい。

## こうべ (あい) ウォーク 2010 / 2010年1月10日(日)

今年もこうべあいウォークは好天に恵まれ、150名の参加者とともに阪神・淡路大震災へ思いを馳せながら、長田地区の復興を確認しつつ歩いた。15周年という節目の年であるため例年より多くの行事が催される中、今年もこうべあいウォークに参加してもらった事を大変うれしく思う。大国公園をスタート地点として自由に長田地区を歩いた後、終点の御蔵地区でまち・コミュニケーションのボランティアさん達が振舞ってくれた豚汁は今年も本当においしかった。

今回の参加者には15年目の想いを書いてももらった。短い文面からでも個々人の復興への想い、神戸への期待など15年の重みが伝わってくる。中には、初参加の方で「元気をもらった。次回来年も参加したい」とのメッセージもあった。震災復興から学んだ事を次世代に伝えようという、復興塾こうべあいウォークにはまだまだ果たすべき役割があることを実感させてもらった。



主催/こうべ (あい) ウォーク実行委員会 後援/神戸市 協力/近畿ろうきん地域共生推進室  
構成団体(NPO 法人しみん基金・KOBÉ、甲南女子大学、まち・コミュニケーション、神戸復興塾、NPO 法人神戸まちづくり研究所)

## 復興塾・まち研メンバー紹介「群像4」

### 群像 「無念さに心を寄せる時」

野崎瑠美（一級建築士事務所(株)遊空間工房）

<rumi-nozaki@u-kukan.com>

人は力を発揮できる場がある時は幸運といえます。社会の変化の中で、場を奪われ力を失った時は、無念という思いがその胸に広がっていることでしょう。この時代に生きて、それなりに力を発揮できた人は幸運と言えるのでしょうか。今もまさに社会の変化の中で、自分の思いを実現しようと張り切っている人と、実現できない悔しさで苦しんでいる人がいることに、それもそれぞれの人生、と割り切ることはなかなか難しいものです。歴史を振り返ってみれば、栄枯盛衰、いつまでもわが世の春が続くことも難しいと感じます。

既に60数年生きてきて自分の人生を振り返り、何が実現できて、何ができなかったのか、そろそろ締めくくりを考える歳となっています。思えば、戦争が終った直後の10月にこの世に誕生し、激動の戦後を過ごし、人生確約できることは何もないことを噛みしめ、男も女も同じ教育を受ける権利を持ちながらも、男女の不平等を感じ、自分に何が出来るかを常に問うてきた人生だったようにも思います。

大学での専門が文化系だったにも拘わらず、自然の流れのままに、建築設計という分野で仕事を続けてきて、目の前の課題に全力で取り組める場を与えられたことは、ある種幸運と言える状況だったのかもしれませんが。今残りの人生を考える時、結局は、人生を幸運と感じるか無念と感じるかは、自分のあるべき姿をどこに置き、どれだけのこと



を自分に期待していたのかということではないかと、つい最近父を失って改めてその人生を慮っています。無念さに心を寄せる時、時代に翻弄されなくて自分らしく生きることが、自分で確信できるのかを問うこの頃です。

### 群像 「自分のことエトセトラ」

山田 和生（(株)マイチケット 会長）

<yamada@myticket.jp>

学校卒業後、診療所に勤務。釜ヶ崎結核患者の会の設立に関わる。この縁で現在も「釜ヶ崎を歩く」ツアーを年に数度企画。野宿者の生活の糧であるアルミ缶の引き取り価格が気がかり。昨年のリーマンショック以前はキロ150円、現在キロ70円。



81年オルタナティブツアーを企画する旅行社、マイチケット (<http://www.myticket.jp>) を設立。現在その会長。

人と出会う、暮らしを知る、文化に触れる、民家に泊まる、屋台で食べる旅を企画する。

95年、NPO 法人アジア太平洋農耕文化の会を設立。現在その事務局長。市民流フィールドワークとして歩いた16回の旅をまとめた『モンsoonアジアの村を歩き続けて』の编者。

95年、本場のパンソリを聴く会を設立。現在その事務局長。震災の縁で親しくなった韓国の人間国宝との交流を続け、韓国の田舎の祭りを訪ね歩く。

多言語センターFACIL 副理事長、街頭紙芝居ファンクラブ大阪事務局、

そして、神戸復興塾塾生・・・「日中交流・復興クルーズ 2004」の事務局長を担。

「交流は一度きりではなく、継続すべきである」という声を耳にするたびに、気がかりなれど未だ応えるに至らず。24 万の犠牲者を出した唐土地震から 33 年の月日が経つ。

趣味、餃子づくり。世界地図の収集。家にはテレビも車もコタツもない。

### 群像 「異端もまた良し」

島田 誠 (ギャラリー島田・アート・サポートセンター神戸 代表) <koomori@mxv.mesh.ne.jp>

15 才から 30 才までは合唱一筋。コンクールで全国優勝を何度も経験し、そのうち一度は指揮者としてだった。人生の歯車が狂いだしたのは 31 才からだ。三菱重工を辞めて、海文堂書店の社長へ転じ、そこも辞めてギャラリー島田を興した。それぞれ 7 年、26 年、9 年である。どんどん下降している。商店街、街づくり組織、神戸都心商業青年協議会の会長や、文化団体の長を務めてきたが、すべて自発的に辞め、下降に拍車をかけた。ドン・キホーテである。自ら社会的実験装置を考案してはわが身を献体として差し出している。街づくりとの関係でいえば、最初は元町場外馬券反対運動に関わり、神戸芸術文化会議の改革、その後「元町ルネッサンス運動」や「元町ミュージックウィーク」創設に関わった。1992 年、全国初の草の根基金、(公) 亀井純子文化基金を創設、震災後は県の「復興支援会議」のメンバーを務めながら、文化復興運動「アート・エイド・神戸」を 7 年間主導した。2001 年には「神戸市長選」で参謀を務めた。2003 年にファンドレイジングのための「ぼたんの会」を提唱、これも 7 年で幕を閉じようとしている。一般財団「神戸文化支援基金」を

近々に立ち上げる。絶えず、批判に晒され、リスクの高い危険水域へと舵をとってきた。僕の背中に立っている旗が境界域なのだ。改革など「戦時」に呼ばれ「平時」に追放される。その繰り返しである。今は「平時」である。本業では、今秋にはノンフィクション作家、後藤正治さんが、ギャラリー島田を舞台に書き下ろし(講談社)を刊行される。異端もまた良しである。

### 群像 「情けは人の為ならず」

喜多 陽太郎

(株アイ・エス・ソリューション代表取締役)



人はなんのために生きるか。答えは難しそうだけど、私に言わせれば以外と簡単。「人は幸せのために生きる」のでは

ないだろうか。そしてその幸せは人が決めるものでも、人との比較から決まるものではなく、本人の心だけが決めるもの。

人から「ありがとう」といわれることは、最も幸を感じる瞬間。ボランティア活動はそのための最も取り組みやすく身近な方法の 1 つだと思う。

「所詮世の中はギブアンドテークさ」と言われる。その通りだと思う。でも、テークの前にギブがあるというのがミソなんだなあ。何かをしてもらったからその人にお返しをするというのでは、幸せなひとは増えない。まず自分のできる範囲でギブをする。相手からの見返りは期待しない。でも「ありがとう」と言ってもらえる。そうしているうちに、自分が困った時に助けてもらえる。そして「ありがとう」という。世の中が「ありがとう」に満ちあふれ、幸せな人が増える。GDP は増えないけどね…これを「現代版ギブアンドテーク」と名付けようとしたけど、昔から日本にはピッタリの言葉があった。

「情けは人の為ならず」

## 群像 「復興塾との縁」

フंक・カロリン (広島大学大学院総合科学研究科准教授)

ドイツの南にあるフライブルク市の出身である。そこの大学で地理学、歴史、そして国語を勉強した。昭和末期にフライブルク市と愛媛県の松山市の姉妹都市関係をきっかけに日本に



来た。愛媛、そして関西でドイツ語を教えながら地理学の研究を続け、日本の観光開発をテーマにドイツで博士をとった。1998年から広島大学総合科学部に人文地理学の教員として落ち着いた。

復興塾との縁であるが、1992年から西宮市に住みながら関西の様々な大学でドイツ語を教えた。同時に、博士論文のために観光に関する研究も進

めたが、その関係で小森先生に出会い、いろいろお世話になった。その時期に、阪神淡路大震災が起こった。西宮のアパートは被害が大きかったため、当時の勤務先であった京都に引っ越した。しかし、神戸の復興が気になり、広島大学に勤務した後、まちづくりに関する研究に取り組んだ。復興塾の皆様にはアドバイスをいただきながら、女性とまちづくりについて数年に渡って現地で聞き取り調査を行った。まちづくりに関する研究は英語の出版物にまとめ、ドイツと日本の市民自治を比較した本にも載せることになった。結局、総合科学研究科大学院の設置にも関係し、「本業」の観光地理学に集中するようになった。最近「学ぶ観光」というテーマで神戸の復興を対象にした観光を取り上げ、または観光地におけるまちづくりに焦点を与え、研究の中で観光とまちづくりをつなげることを工夫している。広島にいるため、復興塾の活動に充分参加できなくて、存在感が薄いメンバーであると思うが、私個人にとっては神戸との縁はやはり重要である。

## 『はじめまして。寺沢正敏です』 <LET07723@nifty.ne.jp>

今年(※昨年)の3月から神戸まちづくり研究所の職員となりました寺沢正敏です。前任の田中さんの後を引き継ぎはや半年。新しい環境に慣れつつも、まだまだ目まぐるしく展開していく業務に毎日必死にしがみついているといった状態です。

私がまちづくりに関わり始めたのは、平成17年から約3年間、野田北部地区の(神戸市長田区)の地域活動推進サポーターを務めたことがきっかけでした。このサポーターは神戸市のパートナーシップ協定による支援の一つで、地域事務所に常駐し、事務局機能の強化支援や当時始まったばかりの鷹取駅前駐輪場指定管理業務のサポート、それに加え、日々の公園清掃、草刈、落書き消し、お年寄りの話し相手?など多岐に渡るものでした。

地域と接する時、ついついリーダーに目が行ってしまいがちですが、地域の中にはリーダーとフ

ォロワーがあり、肩書きのない住民さんがフォロワーにあたるとは思いますが、今思うと、フォロワーが無理なく活動しやすい環境を作り出すことが、サポーターの役目であったように思います。野田北部での3年間は、フォロワーの目線を知るのにとってもいい機会となりました。そして地域活動を継続して行く上で、非常に大切な部分であることも気づかされました。

これまでの経験を、これからは中間支援NPOという違った立場で、少しでも役に立てるよう頑張りたいと思います。これからもどうぞよろしく願いいたします。



# 活動報告 『今年も新分野に挑戦します！』

野崎 隆一（神戸まちづくり研究所理事・事務局長） <ryuichi6384@gmail.com>

※お願い／2009年10月発行予定での原稿のままですので、そのように読み替えてください。

## 旧二葉小学校活用検討支援事業…⑩

地域住民の声が届いて一部保存活用が決まった旧二葉小学校校舎を地域の自治会・婦人会などが連携して運営することを検討しています。まち研は、長田区役所と連携して、地域団体によるNPO法人設立を支援すると同時に、NPO法人が行う事業の企画作成を支援します。本事業には、以前から関わっているスタジオ・カタリストの松原さんを中心に事務局がお手伝いすることになります。事業企画については皆さんからのアイデアを期待しています。

## 長田区ふるさと雇用再生事業…⑨

緊急雇用対策事業の一環で、長田区駒ヶ林地区の地域再生を受託しました。今年度は、まちづくりに関心のある2名を雇用して、地域資源の調査を行います。具体的には、古老を訪ねてヒアリングを行い、地域の歴史や資源を発掘する作業となります。平成23年度までの事業なので、旧二葉小学校跡の事業との連携も視野にいれながら進めようと考えています。長田区に詳しい方々の良いアドバイスを期待しています。

## 教育・地域連携支援事業…③

緊急雇用対策事業の一環で、神戸市教育委員会生涯学習課から受託しました。今年度は「教育・地域連携センター」への常勤職員1名の雇用とパート勤務者12名を雇用して学校や地域の関係者へのアンケート調査を行います。内容としては、学校施設開放事業（マナビイ、のびのびプール・ひろば、運動場・教室等開放、地域スポーツクラブ、市民図書室）、「学校支援地域本部」など地域と学校で関わる多様な事業について、現状の課題と今後の方向性に関する意見とデータを収集することです。それらを「教育・地域連携センター」

と「生涯教育基本計画」に反映させることを目的としています。教育委員会とのおつきあいは初めてで異文化の接触という観がありますが、学校とまちづくりはまち研にとっても重要なテーマですので、今回の受託が良い機会になればと思います。

## 防災関連調査事業…②

（独）防災科学技術研究所リスクマネジメント研究チームの委託により、昨年に引き続き被災者長期生活再建調査をまちコミュニケーションとひょうご・まち・くらし研究所の協力を得て行っています。この成果は、来年出版される予定です。今年度は、これに加えて佐用町、防府町の豪雨水害被害調査を行いました。特に地域コミュニティと災害の関連について、まち研らしい視点で因果関係を探ろうとしています。

## 明舞まちのにぎわい助成事業…⑧

県復興フォローアップ事業のまちなぎわいづくり一括助成事業を申請しましたが、半額の助成が決まりました。平成23年10月までの事業です。内容としては来年3月を予定した「世界団地博覧会」と「サブセンター活用計画」の二本立てを考えています。博覧会は、全国の団地再生関係者や団地フリークを集めます。シンポジウムだけでなく、展示や団地おもしろツアーやお泊まり体験などの企画を考えています。塾・まち研の総力を挙げて汗をかいて楽しみたいと思いますので、皆さんの参加を待っています。

サブセンターについては、20年度の朝霧ショップにつづいて矢元台、松が丘、北せんタウンなどの空き店舗活用についても、まちなかラボの学生にも手伝ってもらいながらアンケートやワークショップを重ねながら進めたいと考えています。

#### 協働コーディネート業務…④

週一回程度常駐し、協働・参画のプラットフォームにおいて「パートナーシップ助成」を受けた団体の部局との調整や支援業務を行うものです。

//継続事業も頑張っています!!//

#### グラスパーキング推進業務…①

平成19年から始まった県庁南駐車場での30種にわたる工法の性能調査も最終年度となりました。駐車場の芝生化に関するガイドラインも出来ました。今年度は、3年の締めくくりとして成果の報告と今後の普及啓発にむけたフォーラムの開催を予定しています。

#### NPO等育成アドバイザー派遣事業…⑤

まち研からの提言によりスタートし、好評を得ながら5年目を迎え、今年度も市民活動センター神戸(KEC)としみん基金KOBEとの連携でNPOへの運営アドバイザー派遣事業を行っています。

#### 小規模作業所等事業サポーター制度…⑥

新制度への移行支援を目的に始まった事業も今年で3年目を迎えます。今年度も市民活動センター神戸やひょうご・まち・くらし研究所他との連

携のもとでサポーター派遣制度を始めています。今年度は、作業所間のネットワーク強化や事務の共同化なども視野にいれながら事業を進めようと考えています。

#### まちづくりコーディネーター常駐業務…⑦

明舞まちづくり広場に駐留し、地域人材を発掘しコミュニティサービスの仕組みをつくる事業ですが、昨年から引き続いて受けています。

#### 修学旅行受け入れ事業(自主事業)

今年度は7校800名の受入が決まっていますが、5月のインフルエンザ騒ぎで2校がキャンセルとなり2校が秋に延期となりました。受入地域も変更を快く承諾して体制を整えてくれています。

#### コレクティブオフィス事業(自主事業)

市民活動離陸支援のインキュベーター事業で、事務所スペースを提供し相談も受けます。現在5団体が入居して活動しています。

#### 研究者等研修事業(自主事業)

研究者や学生などの研修の受け入れや講師派遣を行っています。今年度はCSCDのフィールドワークや明石市の市民ワークショップを実施しています。

### 今年度の委託事業および助成事業

#### 民間非営利組織、市民活動及びまちづくりに係る調査・研究・研修・政策提言

- ① グラスパーキング推進業務 [事業規模：777万円]
- ② 阪神淡路大震災における被災者の長期生活再建調査業務 [事業規模：98万円]
- ② 兵庫県佐用町幕山団地での災害避難活動にかかわる被害調査 [事業規模：15万円]
- ② 山口県防府市真尾地区の水害被災事故に関する調査 [事業規模：30万円]
- ③ 生涯学習基本計画に関するアンケート調査等 [事業規模：597万円]

#### 民間非営利組織、市民活動及びまちづくりの支援事業

- ④ 神戸市とNPOまたは地域団体との協働のコーディネート業務 [事業規模：90万円]
- ⑤ NPO等育成アドバイザー派遣事業 [事業規模：250万円]
- ⑥ 神戸市小規模作業所等事業サポーター制度 [事業規模：225万円]

#### まちづくり及び地域再生のために必要な事業

- ⑦ まちづくりコーディネーター常駐業務 [事業規模：60万円]
- ⑧ 「世界団地博覧会 in 明舞～集え！団地を愛する人～」 [事業規模：498万円]
- ⑨ 高齢化の進んだ地域等における地域力再生支援モデル事業(長田区南部西地区) [事業規模：463万円]
- ⑩ 旧二葉小学校活用検討支援事業 [事業規模：401万円]

# まち研ニュース 17号

## メルカテッロ・マテーラ・ラクイラ(イタリア)

小林 郁雄 (神戸まちづくり研究所理事長) <ikuo-ko@kcc.zaq.ne.jp>

昨年夏 (2009年8月末)、久しぶりにイタリアに行ってきた。主目的はフィレンチェからそれほど遠くないマルケ州西端にあるメルカテッロという「イタリアの小さな町の豊かな生活」を確かめに JUDI 関西の有志と訪れた。

メルカテッロに関しては、都市環境デザイン会議機関紙 JUDI の 103 号 (30Mar.2010) に特集している。

### ●マテーラ/Matera

イタリア南部、長靴の土踏まずのあたりにバジリカータ州マテーラという都市がある。古くから洞窟住居 (サッシ) がつくられた街であるが、赤痢などの疫病の温床と劣悪な居住環境から、全住民強制退去が 1952 年にイタリア政府によって進められた。



今回メルカテッロの 세미나に集結する前に、南北両コースにわかれてイタリアを訪ねたが、アルベロベッロと共にこのマテーラが南コースの目的地であった。半世紀前に廃墟となった洞窟都市マテーラが、1993 年世界遺産に登録されるに至った訳なのだが、それは今どのような状況なのか？

一度は無人の街となったサッシは昔の洞窟をリニューアルして、新しい住居、観光施設として生

まれ変わりつつあった。そこには昔からの小さなコミュニティを基本にしたニュータウンには無い暖かな生活を取り戻した新住民と観光客の融合した街がよみがえっていた。

### ●ラクイラ/L'Aquila

フィレンチェで一行 22 名は現地解散し、私はローマから帰ったのだが、せっかくなので一日 (8/31)、ガイド+ドライバーの案内で 2009 年 4 月に地震のあったラクイラ被災地を見学に行ってきた。

ローマ中心部から高速道路を車で 1 時間半ほど。ラクイラの街のチェントロ・ストリコは基本的には立入禁止であったが、幸いなことに街の中心のドーモ広場までが、ちょうど 1 か月ほど前から、一般開放されていた (徒歩のみであったが)。



隣接のオンナ村やグレゴリオ村も立入禁止であったが幹線道路から被災状況がよくわかった。また、多くの避難所テントがトレーラーハウスと共にあちらこちらで活躍していた。

なんで許可証がないと入れないか？と思っていたが、まだ住民も全員避難中 (避難勧告?) で応急的な補強工事などが全面的に行われていた。

### 特定非営利活動法人神戸まちづくり研究所・神戸復興塾

〒651-0076 神戸市中央区吾妻通 4 丁目 1 番 6 号 TEL : 078-230-8511 FAX : 078-230-8512

E-mail = LET07723@nifty.ne.jp Homepage = <http://www.kobe-machiken.org/>